

(様式1)

自 己 評 価 表

愛媛県立宇和島東高等学校(全日制)

学校番号(43)

教育方針	人格の完成を目指して、敬愛・自律・進取の精神を培い、21世紀をたくましく生きぬく心身ともに健康な生徒の育成に努めます。	重点目標	地域を愛しつつ 多角的な視点で考え 広く社会に貢献できる教養人の育成
-------------	---	-------------	---------------------------------------

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
自 己 実 現	わかる授業の実践	授業研修や教科の連携を推進し、アクティブ・ラーニングなど指導方法を工夫・改善して授業の質の向上を図り、生徒の授業満足度100%を達成する。	B	12月に実施した授業アンケートの評価の平均値は3.35であり、7月と比べて0.1ポイント上がっているが、授業満足度は83%だと考えられる。	授業アンケートの結果、生徒の授業満足度は高いと考えられる。引き続き、主体的・対話的で深い学びの視点から指導方法の工夫・改善を図り、生徒が確かな学力を定着できるよう努めていきたい。
		研修・研究授業に5回以上参加することを通して、自己研修の充実を図るとともに、校内授業相互観察により、「主体的な学び」を推進する。研究授業の計画的な実施及び、授業研究会の協議方法やその内容の深化により、授業力の向上を図り、授業改善に努める。	B	1月末までに、研修・研究授業に8.1回の参加が見られた。学校訪問研修及び、県立学校基礎研修等には本年度ものべ約60名が参加した。また、校内現職教育計画に沿って校内研究授業を12回実施した。校内授業相互観察についても、全員が複数回行なっている。	本年度のアンケートでは、「教科会や校内授業研究会授業等で、授業方法について検討するなど、教科指導力に努めているか」の項目が昨年と比べて0.2ポイント低下した。来年度は授業研究会における研究協議内容や進行方法について、検討していきたい。
	学習習慣の確立	教科間で連携し設定した適量な課題に取り組みさせるなど、一日3時間以上の家庭学習習慣の確立を図り、継続的な学びの姿勢を育成する。	C	2学期の調査で、3年理・普科は4時間18分と目標を達成したが、商業科は1時間59分と達成できていない。3学期の調査で、1年理・普科は、2時間30分、商業科は1時間25分、2年理・普科は2時間37分、商業科は1時間35分と目標を達成できていない。	家庭学習時間の増加には、学習意欲の向上が不可欠である。様々な行事で進路意識を高め、学習意欲の向上につながるよう、日々の授業を工夫していきたい。
	理数教育・産業教育の充実	科学的探究能力の育成を図るとともに、科学系コンテスト等において課題研究の受賞数20件以上を、また、地域貢献の意識を高めるために、地域サイエンス事業のイベント等への参加数500名以上を目指す。	C	科学系コンテスト等への応募等103件(H31.3.31までの予定件数含む)のうち、受賞は16件(H31.1.31現在)であり、課題研究を通して科学的探究能力の育成に向けた一定の成果はあった。また、地域サイエンス事業のイベント等への参加数は目標人数の約6割であったが、更なる活性化を図るため、地域と連携した運営に係るPDCAサイクルを遂行できた。	科学系コンテスト等への応募や受賞について、目標件数に到達するよう努めていくとともに、ルーブリック評価やポートフォリオを活用した指導を充実させる。また、地域サイエンス事業のイベント等の運営において、具体的な改善策を、近隣の小・中学校と協力して実践に移していきたい。
希望進路実現	希望進路実現	キャリア教育全体計画に基づいたキャリア指導を実践し、資格取得を奨励して全商検定1級3種目以上合格者70%以上を達成する。	C	インターンシップをはじめ、ビジネスマナー講習会の実施など、各学年において幅広く実践できた。また、全商検定1級3種目以上合格者は、55%である。	情報処理分野のキャリア教育が実践できるよう講座内容及び指導の充実を図りたい。また、全商協会主催の検定試験の難易度が上がっているため、平日補習等の指導を行いたい。
		望ましい職業観を育成するとともに、生徒の能力・適性・希望を把握した就職指導を実践し、早期に採用内定率100%（一次試験合格率90%以上）を達成する。	A	個別面談や保護者面談などを通じて、生徒の希望する就職先に内定することができた。学校斡旋に関しては、全員が一次試験で合格した。公務員については、全員合格はできなかったが、4名合格することができた。	キャリア教育については、3年生だけではなく、1・2年生の早い段階から充実させていきたい。教員間での情報共有や保護者への情報提供について充実を図りたい。
		進学データの有効活用など教員の進学指導力の向上を図り、国公立大学及び難関私立大学合格者数110名以上を達成する。	B	進学指導委員会などを通じて、過年度の受験実績などを参考にしながら指導できた。希望進路の実現に向け、学力の向上とあわせ、志望校の検討、国公立大学の一般入試対策を行った。	生徒の希望を尊重しながら、最適な受験先を提示するために、各学校の特徴、受験方法などの情報共有や教師間の連携などを深めていきたい。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
心身健康で豊かな心	基本的な生活習慣の定着	全体指導及び個別指導を通して、気持ちの良い挨拶・端正な身だしなみの実践100%を達成する。また、交通マナーやルールを遵守する生徒を育成し、交通事故0を達成する。	C	気持ちの良い挨拶・端正な身だしなみの実践はアンケート結果から見ると、どちらもほぼ昨年同様、70～80%の達成であった。交通事故についても昨年と同じで、1年間で4件（いずれも自転車での自損事故）発生した。	挨拶は、相手に対してだけでなく自分自身も気持ちよく生活していくうえで大切なものであることを伝えていきたい。身だしなみ指導は、合格率がおおよそ87%前後なので、機会を捉えて適切な声掛けや指導を行い、合格率を高めていきたい。
		生徒の健康・安全に留意し、長期欠席・不登校への早期対応に学校全体で取り組み、一か年皆勤率60%以上を達成する。	B	皆勤率が、3年56.9%、2年66.1%、1年63.1%であった。1年は1学期80.9%だったが2学期20%低下した。欠席した生徒や保健室利用生徒の情報など共有し、連携を図ったが1・3年生に長期欠席や不登校の生徒が多かった。	担任や学年主任や教科担任、家庭との連携を早期に図り、早い段階から面談や家庭訪問をおこなう。
	人権意識の高揚	「学校いじめ防止基本方針」に則ったいじめ、人権侵害をなくす取組を10回以上実践するとともに、校外活動に参加する生徒を増やす。	B	人権・同和教育ホームルーム活動（4回）の実施、人権だより、「ひだまり」の発行（5回）、宇東人権メッセージの発行等によって、生徒の人権意識の高揚に努めた。また、識字学級への参加（3回）、たんぼスマイルとの交流会、宇和島地区交流学習会など校外活動へも多くの生徒が参加した。	ホームルーム活動の指導資料の充実を図る等、生徒が主体的に課題に取り組める授業実践のための情報提供を積極的に行いたい。人権委員以外の生徒の校外行事への参加を促す取組を実施するとともに、保護者への啓発活動の工夫を図りたい。
	読書の勧め	「朝の読書」やクラス単位での読書会を実施することで、読書指導の充実を図る。「宇中文庫」(集団読書用の新書)を各クラス年間2回以上活用することで、より良い読書習慣の確立を目指す。年間読書冊数一人10冊以上を達成する。	C	図書に関するアンケート結果は、年間読書冊数の平均が3/1現在7.0冊(昨年度9.7冊)であった。また、朝の読書については、75%(昨年度90%)の生徒が充実していると回答している。宇中文庫については、1月末現在で1・2年生全クラスで1回以上、3年生1～4組で2回の貸出があった。	全校一斉に「朝の読書」が開始できるよう、来年度は開始時間の検討をする必要がある。全校で取り組むためにも、まずは、学年間で共通理解を図っていく必要があると思われる。読書離れ、活字離れが進んでいるという印象は否めない。
	ボランティア活動や地域イベントへの参加	一人年間1回以上のボランティア活動や地域イベントに積極的に参加することを通して、広く社会に貢献し地域を愛する人材を育成する。	A	西日本豪雨災害に直面し、被災した生徒がいる中、生徒達のボランティア意識は高く、部活動での参加や個人での参加などそれぞれが様々な形で被災地域でのボランティアに参加し活動した。	西日本豪雨災害での生徒達のボランティア活動は大変素晴らしかった。この意識のまま活動を継続してもらいたい。
魅力ある特別活動	生徒主体の学校行事	学校行事において生徒の主体性を軸に、協調性・独創性及び愛校心を育成し、生徒の学校行事満足度100%を達成する。	A	体育祭や文化祭では98.2%と高い満足度をあげる活動内容で、生徒達の意識は全体的に高いものがある。短い期間での取り組みなど生徒達の努力は素晴らし。ポートルース大会については豪雨災害で開催できなかったことが残念であった。	日程的には、進路関係や模試検定などの影響で厳しい条件の中、本当によく活動できている。来年度も期待したい。
	部活動の活性化	教職員、生徒一体となり部活動のさらなる活性化を図る。また、部活動加入率を高め、心・技・体の調和の取れた生徒を育成するとともに、昨年度の愛媛国体での勢いを継続してさらなる高みを目指し、12部以上が全国大会出場を達成する。	A	久しぶりに団体種目で全国大会出場を果たしたサッカー部を中心に、今年度の各部活動はそれぞれ成果を上げる事ができた。延べ16の部が全国大会に出場し目標を十分に達成することができた。他の生徒達にも良い刺激を与えられたのではないだろうか。	この流れを継続できるように、また、さらなる高みを目指していろいろな部が切磋琢磨して上昇していけるようにバックアップする。

※評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。